# **Economic Indicators**

発表日:2021年11月12日(金)

# 主要経済指標予定(2021年11月15日~11月19日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部 日本経済短期チーム(Tel:03-5221-4525)

(11月15日~11月19日の主なイベント、指標予定)

(11)			月 19 日の主なイベンド、相信 指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
11月15日	(月)	8:50	7-9 月期 GDP1 次速報				
117,10 [	()1)		実質 GDP 成長率(前期比)	▲0. 2%	▲0. 2%	<b>▲</b> 0.5% <b>~</b> +0.1%	+0.5%
			(同年率)	▲0.7%	<b>▲</b> 0. 7%	<b>▲</b> 2.2% <b>~</b> +0.6%	+1.9%
			名目 GDP 成長率(前期比)	▲0.3%	▲0.3%	<b>▲</b> 1.2% <b>~</b> +0.9%	▲0.1%
			GDP デフレーター(前年比)	<b>▲</b> 1.3%	<b>▲</b> 1.2%	<b>▲</b> 2.1% <b>~</b> 0.0%	<b>▲</b> 1.1%
		13:30	9月鉱工業指数・確報				
			鉱工業生産指数(前月比)	_	_	_	<b>▲</b> 5. 4%
			(前年比)	_	_	_	<b>▲</b> 2.3%
			稼働率指数(前月比)	_	_	_	<b>▲</b> 3.9%
			生産能力指数(前年比)	_	_	_	<b>▲</b> 1.2%
		13:30	9 月商業動態統計・確報				
			小売業販売額(前年比)	_	_	<u> </u>	▲0.6%
11月16日	(火)	13:30	9 月第 3 次産業活動指数				
			(前月比)	+0.7%	+0.8%	<b>▲</b> 0.8%~+2.3%	<b>▲</b> 1.7%
			(前年比)	<b>▲</b> 1.3%	_	<u> </u>	▲0.5%
11月17日	(水)	8:50	10 月貿易統計				
			輸出金額 (前年比)	+8.9%	+10.5%	+4.0%~+13.4%	+13.0%
			輸入金額 (前年比)	+27.2%	+31.8%	+27.2%~+44.6%	+38.6%
			貿易収支(原数値、億円)	<b>▲</b> 1,099	<b>▲</b> 3, 200	<b>▲</b> 9, 949 <b>~▲</b> 662	<b>▲</b> 6, 241
		8:50	9 月機械受注統計				
			船電除く民需(前月比)	+2.8%	+1.8%	<b>▲</b> 1.5%~+5.0%	<b>▲</b> 2. 4%
			(前年比)	+14.9%	+17.7%	+13.6%~+20.3%	+17.0%
11月18日	(木)						
11月19日	(金)	8:30	10 月消費者物価指数(全国)				
			全国コア(前年比)	+0.2%	+0.1%	<b>▲</b> 0.1%~+0.4%	+0.1%
			全国総合(前年比)	+0.1%	+0.1%	<b>▲</b> 0.1%~+0.6%	+0.2%
		14:00	9 月建設総合統計				

# 7-9月期GDP1次速報・実質GDP成長率 <u>当社予想:前期比年率 ▲0.7% 中央値:同 ▲</u>0.7%

前期比年率▲0.7%(前期比▲0.2%)と、2四半期ぶりのマイナス成長になると予想する。内需、外需とも弱く、夏場の景気が低調に推移したことを改めて確認させる結果となるだろう。新型コロナウイルスの感染急拡大によりサービスを中心に個人消費が悪化したとみられることが響くほか、半導体不足や東南アジアからの部品調達難による自動車の大幅減産が下押し要因となる見込み。

(経済調査部長・主席エコノミスト:新家 義貴)

#### 9月第3次産業活動指数 当社予想:前月比 +0.7% 中央値:同 +0.8%

9月の第3次産業活動指数は前月比+0.7%の上昇を予想する。9月は下旬に感染者数が減少したことから、8月の大幅な落ち込みからの反動により生活関連サービスや小売業等を中心に上昇するだろう。先行きは、10月から緊急事態宣言が一斉解除されたことに加えて、足元での感染動向も落ち着きを見せていることから、前月比上昇が続く可能性が高い。

(副主任エコノミスト:大柴 千智)

### |10月貿易統計・貿易収支額(原数値)| 当社予想:▲1,099 億円 中央値:▲3,200 億円

10月の貿易収支は▲1,099億の赤字(原数値)を予想する。輸出は、10月も世界的な部品調達難を 背景とした自動車減産が続いたことから、自動車輸出の下振れによって前年比での伸びは鈍化が続く 見込み。輸入は、原油価格の高騰を反映した高い伸びが続くだろう。輸入の上昇が輸出を上回ること により、貿易収支は赤字が続くと見込む。

(副主任エコノミスト:大柴 千智)

#### |9月機械受注・船舶電力除く民需||当社予想:前月比 +2.8% 中央値:同 +1.8%

9月の機械受注(船舶電力除く民需)は、前月比+2.8%を予想する。7-9月期では、内閣府見通しの前期比+11.0%の達成は困難であるものの、プラス圏での着地となることが見込まれる。非製造業や供給制約の影響を受ける自動車において設備投資が停滞する一方、はん用・生産用機械等を中心に製造業が牽引役となることで、全体としては前月から増加するとみている。先行きについては、感染状況の改善やそれに伴う緊急事態宣言解の解除を受けた非製造業の持ち直しにより、全体としては設備投資の回復基調での推移が続くだろう。

(主任エコノミスト:小池 理人)

#### │1 0月全国消費者物価指数(生鮮食品除く総合)│ 当社予想:前年比 +0.2% 中央値:同 +0.1%

CPI コアは前年比+0.2%と、前月からプラス幅を拡大させる見込み。携帯電話通信料の引き下げによりエネルギー以外では下落幅が拡大する一方、燃料価格上昇の影響でエネルギー価格が大幅に上昇することが押し上げ要因になる。先行きも、エネルギー価格による押し上げを主因として、CPIはプラス幅を拡大させる可能性が高い。

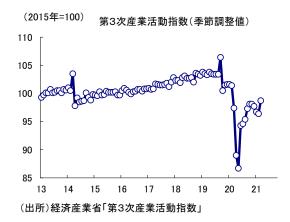
(経済調査部長・主席エコノミスト:新家 義貴)

図表1
2021年7-9月期GDP予測

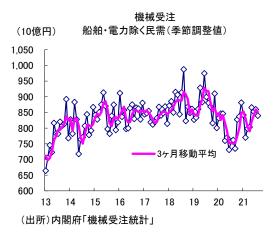
	(%)
実質GDP	▲ 0.2
(前期比年率)	▲ 0.7
内需寄与度	▲ 0.3
(うち民需)	▲ 0.4
(うち公需)	0.1
外需寄与度	0.2
民間最終消費支出	▲ 0.6
民間住宅	▲ 0.2
民間企業設備	▲ 0.9
民間在庫変動(寄与度)	0.1
政府最終消費支出	0.8
公的固定資本形成	▲ 2.0
財貨・サービスの輸出	<b>▲</b> 1.9
財貨・サービスの輸入	<b>▲</b> 2.8

※断りの無い場合、前期比(%)(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

#### 図表2



## 図表3



## 図表4



#### 図表5



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究 本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく 変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

